

今あるものづくりを その先の未来へ

e建具

TATEGU

2012

3月号



海外展示会に見る建具の方向性

「ジャパンブランド」の木製品をアジア市場へ

木材の輸出促進に関する意見交換会を実施

国産材の輸出のみならず木構造の輸出・生産といった広い視野から日



近隣諸国への木材製品輸出のあり方を協議

本の木材の輸出促進を図る動きが国の支援と相俟ってこの数年続いている。背景としては人口減少の中、国内市場の行き詰まりと縮小が長期的に続く見通しであり、アジアを始めとした海外市場への進出を図ることで日本の貿易収支の安定化と日本の林業における雇用の充実を図る狙い



昨年の上海での展示会における日本ブース

がある。

林野庁は2月17日、「木材の輸出促進に関する意見交換会」を農林水産省第二特別会議室にて開催。中国などアジア新興国の経済発展に伴い、木材の輸出拡大が期待されているが、近年木材の輸出額は伸び悩んでいることから、諸外国と競争できる体制整備など今後の施策に反映させるため、実際に海外へ輸出している事業者との意見交換を行った。協議内容は木材輸出の課題と今後必要となる方策について。中国、韓国市場で国産材の販売で実績を挙げている商社、製材メーカー、関連協会のほか、木造住宅の生産に詳しい各方面の代表を招き、日本の木材輸出に関して得意な所はどこなのか、広い視野から国産材の海外市場展開について意見交換を行った。会議の冒頭、事務局から現在の海外展開の現状に関する説明があつ

た。それを受ける形で委員による意見交換が行なわれた。

中国・韓国向けは丸太・チップが増加

我が国の木材輸出額は、2011年で97億円（前年比4%減）。中国向け木材輸出は24億円（同6%減）。うち製材が30%の7億円（同8%増）、丸太が10%の2億円（同51%増）、合板が10%の2億円（同53%増）と増加傾向にある。建築木工作品・建具は15%（同32%減）、繊維板は3%（同13%減）と減少傾向にある。韓国向け木材輸出は11億円。内訳は丸太が38%の4億円（前年比97%増）、製材は20%の2億円（同26%増）。加工材は10%の1億円（同62%増）チップは1億円以下（同35%増）と増加傾向。建築木工作品・建具は7%の1億円（同23%減）と減少傾向にある。

中国への木材輸出を推進

これまでの取り組みとしては、①上海・義烏で各1回のジャパンパビリオンの設置、②日本産木材説明会